

Bun voya!

越前市文化センターだより

Vol.2 2018.winter

文化センターの「つぶやき」ならぬ「ぼやき」で文化センターへの旅を…

あなたに聞きたい!



中嶋宏太郎さん

今回の「あなたに聞きたい!」は十二月二十日に越前市文化センターでの公演に出演される、福井県出身の前進座俳優、中嶋宏太郎さんにお話をお聞きしました。

文化センター(以下文)：まずは中嶋さんはどうしてこの道に進んだかをお聞きしたいと思います。

中嶋宏太郎さん(以下中)：僕は中学校高校と吹奏楽しかやってなかったんで、芝居とは全く縁がなくて、福井にいたときは芝居を観たことがなかったんですね。いえば興味はなかったというか…。

実は高校では演劇部は全国大会とか行っていたらしいんだけど、それを横目で見て「校庭でよく発声練習なんかできるな」なんて思ってたんです。嫌いとかじゃなく興味と範疇に無い。

それが東京の大学に行って、銀座に行ったときに歌舞伎座があって一幕見席(※)の千円で初めて歌舞伎を見たんです。

文：ぱつと入ったんですね。

中：「行こう!」と思って行った記憶はないんです。なんかまたまた。今思えば勧進帳の山伏問答だったんですが、途中でぶわあっと拍手が鳴って鳥肌が立つくらい、この空間で何が起きているんだらうと。お客さんと一体感があってすごいなあと。で、終わってパンフレット買って、千五百円くらいしたんですけど。パンフレットの方がチケットより高い(笑)でも買わないとわかんないと思って。で、読んだら勧進帳の

安宅閣で。弁慶が(中村)吉右衛門さんで、富樫やってくるのが(松本)幸四郎(現在の松本白鸚)さん。義経が(坂東)玉三郎さん。すごい三人だったんです。しかも、その当ても幸四郎さんは弁慶ばかりやってたんです。その時はなぜか富樫役だったんです。で、吉右衛門さんが弁慶。丁々発止の山伏問答がまあすごくて。

それが一番最初だから、歌舞伎が素晴らしいとかじゃなくて、「こんなものがあるんだ!」っていうカルチャーショックでしたね。目からうろこというか。それから歌舞伎を幕見で見始めて。

それから新劇とか小劇場を観たり。小劇場ブームの時だったので、アルバイト先の仲間の芝居を観に行っちゃよと手伝った。そんな4年間になったんです。

そんな中いざ就職となったときに、就職活動しながら「このまま就職していいのかな」と初めて思って。「あ、役者やってみたいかも」と思ったんです。

文：学生時代は役者はやってないですよね。中：いや、全然ですよ。役者をやるつもりは全然なかったんです。

電車で就職試験に行くときに、吊革につかまりながら「ああこのまま電車で通勤する生活が続くのかな」とふと思っ。なんか悪魔のささやきが。両親に「ちよつと相談があるんだけど」って連絡をして。

いざ、どこの劇団を探そうかと思った時に唯一試験があったのが十月に「劇団四季」その劇団四季を肝試しで受けて。二千人受けてほんとにわかんないうちに残っていた。試験受かって、でも結局行かなかったんですけどね。

文：え!一回も行かなかったんですか?なんかもったいないですね。

中：そんなことがあって、1月になってから文学座、青年座、俳優座…無名塾もあったかな。一通り全部受けて。ただ僕は最初に歌舞伎を観て衝撃を受けたからあたまに「歌舞伎!」っていうものがあって。そんな中に前進座があって。前進座は歌舞伎から飛び出して先輩が作った劇団だから、歌舞伎を続けていて、時代劇もやりながら、しかも今回の

「ちひろ」みたいな劇もやればミュージカルもやって、「こんなところもあるんだ」と。いいなあと思っただけで募集が3月だったからそれまで待つて落ちたら行く所が無くなっちゃう(笑)だから1月から順番にいろいろあるもの全部受けていたら文学座にひっかかったんです。

文：すごいじゃないですか!
中：とにかく文学座に引っかけたんで、一年間養成所に行つて、その次の年に前進座の養成所に入り直して。

文：前進座は行きたかったところだったんですよ。

中：そうなんです!しかも僕が小学生の時にやっていた「遠山の金さん」の(中村)梅之助さんが当時座長だったんです。あの時代劇スターの劇団だ!と思つて「じゃあここがいい」ってのもありました。

でも入つてからが厳しかったですね。僕は稽古で花道から入つてきて一言台詞を言うだけで四十分止められましたから。その一言がうまくいけば芝居が進むんですけど、僕のその一言が「違!」「全然違!」と。

その間、周りの先輩方はそのまんま…。僕が一言ちゃんと言えば素直に芝居が始まっていくわけだから、みんな立ったまま「ああまたダメか」と。

文：うわあ、つらい!
中：いやあつらい!もう「明日やめよう!」と思いましたが(笑)

文：でもこうやって続けてこられたのはやっぱり演劇が好き、とか面白い、という思いですよ。

中：そうですね。最初はやってみたいと思つてたから、思い切りもあるじゃないですか。勢いというか。でもそれを続けていくというのがいかに大変か。いろんな理由で「ああ芝居はもうこれ以上続けていけない」と思つた時もあります。でもやっぱり舞台に立つて拍手をもらったり、お芝居が終わるとお客さんとの交流会があるんです。そういう時に話を聞いて。こっちは自分がやりたいと思つてお芝居を始めたけど、いざ舞台に立つてたたくさんのお客様と舞台を共有していると、それだけじゃす

まない責任というか。知らない所でこんな人に感動して人に勇気を与える職業、お芝居なんだと思うと勝手に辞めちゃいけないと思うんです。人に影響力をというの大げさですけど、僕が歌舞伎座に見に行つて人生が変わつた。それが他の人にもあるかもしれない。ちよつと責任もあるし、途中でやめるっていうのはダメだなと。

文：中嶋さんもそれで今の中嶋さんがあるんですもんね。

文：最後に今回の公演の見所を教えてください。

中：ちひろさんのお芝居をやるんですけど、やるのはごく短い期間なんです。でも実はそこがちひろさんの変換期というか絵を確立していくドラマチックな時期。プロの絵かきとして絵で生活していくんだ!という決意として東京に出てくる、その日からお芝居が始まるんです。僕の役はちひろさんと同じ新聞社に勤めているんだけどちひろさんの絵を見たらいつべんにちひろさんのファンになって恋心を抱くんです。

結局は見事に振られるって役なんですけど。僕の役も戦争で亡くなつてしまつた親友が描いた絵を守っている。そのいきさつを語るところがあります。これが一幕の魅せ場です。

ちひろさんの絵も平和を願つて描いている。この作品の根底にあるのは「平和への願い」みたいなのはあるんですよ。ただ、それを前面に、というよりも自分を信じてああいう絵を描き続ける。やっぱ、花と子どもにこだわって描き続けたのは「平和への願い」があるんで、そういうのが観終わった後にほんの少し感じてもらえたらいいかなと思います。なぜちひろさんが絵を描き続けたのか、なぜ今も絵が愛され続けているのか、感じて欲しいです。なぜ絵を描き続けたかっていうのが観終わった後に「ああなるほどな」と感じられる芝居になると思っています。

楽しいお話に引き込まれてしまいました。中嶋さんに会いたくなつた方は、ぜひちひろ公演にお越し下さい!(詳細は裏面で)

※一幕見席とは…好きな幕をお気軽に鑑賞できる歌舞伎ならではの人気席

いわさきちひろ生誕 100 年前進座公演 **ちひろー私、絵と結婚するのー**

日 時：2018 年 12 月 20 日（木）13:30～、18:30～（2 回公演）

入場料：A 席（指定席）5,000 円→友の会 4,500 円 B 席（自由席）4,000 円→友の会 3,600 円 学生席（自由席）1,000 円

第 70 回記念文化センター寄席
還暦・噺家生活 40 周年記念

12 月 8 日（土）チケット発売！！
桂米團治独演会

日 時：2019 年 2 月 11 日（月・祝）
13:00～、17:00～（2 回公演）

会 場：越前市文化センター 小ホール

出 演：桂米團治 桂あさ吉（助演） 桂米輝（前座） 桂慶治朗（前座）※前座は 1 回目 2 回目で交替出演

入場料：一般 3,000 円 越の都ホール友の会 2,500 円 大学生以下 500 円（全席自由席）



<桂米團治経歴> 昭和 53 年 8 月 父である桂米朝に入門 芸名 桂 小米朝
昭和 59 年 NHK 総合 連続テレビ小説 「心はいつもラムネ色」出演
昭和 60 年 NHK 総合 「しあわせの国、青い鳥ばたばた？」出演
平成 4 年 大阪府民劇場賞奨励賞 受賞
平成 15 年 NHK 総合 連続テレビ小説 「てるてる家族」出演
平成 17 年 12 月 兵庫県芸術奨励賞 受賞
平成 20 年 10 月 五代目桂米團治を襲名。京都南座を皮切りに全国各地で 77 回の襲名披露公演を実施
平成 27 年 10 月 尼崎市民芸術賞 受賞

越前市文化センタージュニア合唱団

このとり日記

平成 30 年 11 月

いっしょにうたおっさ～♪



コウトリの練習は楽しく笑顔いっぱいです。声は遠くまで響いていきます。

コウトリの糸東羽は楽しく気持よく練習しています。

コウトリ合唱団の練習では先生が優しく教えてくれてみんなが楽しく歌っています。難しい曲もあるけれど本番に向けて一生懸命練習すると少しずつ上達しているのが感じられてとてもうれいいます。

初めてはいっぱいおどろきましたか、みんながよくしてくる心やさしい人たちはばかりです。歌は心を楽しくしてくれます。歌うのは良いことです。

みんな一生けんめい練習しています。たくさん新しい歌を知ることができました。すごく楽しいです！



きょうから初めて知らない歌たくさんあるけどこれからいろいろな歌にチャレンジしたいと思います。がんばって練習する。はっぴょう会もゆうきをだして心をこめてうたいます。これからがんばります。



今年もあるよ！



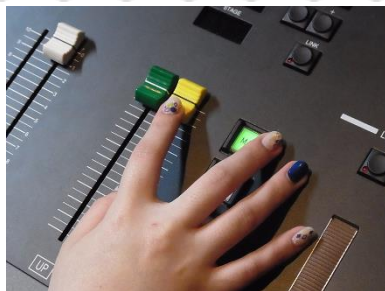
このとりクリスマスコンサート

日 時：2018 年 12 月 23 日（日）14:00～

主 演：越前市文化センタージュニア合唱団
このとり ほか

入場料：無料

文化センターからこんにちは！



こんにちは、文化センター舞台係です。

舞台係は大ホール担当 2 名+小ホール担当 1 名のスタッフでホールを管理しています。

ホールを利用する皆さんが舞台を使って芸術表現・創作をするためのお手伝いを行い、観客も含め文化センターに来られた皆さんが満足した利用ができるよう取り組んでいます。文化センターは 1 年間にわたって行われた大規模な改修工事が完了し、新しい照明設備が導入されました。舞台照明とはステージをただ明るくするだけではなく、その空間と人をより美しく華やかに、視覚的に演出するものです。それには、作り手の想いとセンスが大きく影響します。昨年、うちの新人さん（照明担当です）が舞台照明のデザインや演出、制作から操作までさせてもらうようになり、大ホールを利用された皆様から大変好評をいただいています。

うちの照明さん、女性ならではの繊細で美しい明かりを作ります。女性は男性よりも細かい気配りができることが大きなメリットなのですが、舞台のお仕事にも努力と工夫が随所に見受けられるのです。とにかく本当にきれいな明かりを作るので、これから文化センターご利用予定の皆さん、是非うちの照明担当に明かりのことはお任せください！

今回は、照明のお仕事です。

※越前市文化センター事業の案内は、ホームページに掲載しています。

<http://www.jigyodan-city-echizen.jp/bunka>

<発行・編集> 2018 年 11 月 越前市文化センター 越前市高瀬 2 丁目 3-3 TEL:0778-23-5057 FAX:0778-21-1975

Bunvoya!は越前和紙を使用しています